



# 双塔

カトリック新潟教会

2021年5月  
No. 396

## 来日 30 周年

協力司祭 ホセ・ルイス・ロレンゾ

私が初めて日本に到着したのは、1991年5月3日でした。したがって、今年の5月は、私の日本での宣教活動の30年目にあたります。あの時、私は34歳、司祭2年目で、宣教師としての旅を始めたいと思っていました。最初の2年間は、名古屋の南山大学で日本語を学んでいました。言葉だけではなく、文化も学ぶことになり、大変な時期でした。今でも覚えているのは、出かけても、レストランでの食事はあまりしなかったことです。店員さんに何か聞かれたら、日本語が分からないから、答えられないだろうとの心配でした。理髪店でも同じことが言えます。どのように髪を切りたいのか説明できないので、行くのが怖かったのです。だから、最初の半年間はコンビニの食べ物を買って、公園で食事をしました。そして、自分で髪を切っていました。ひどい髪型でしたが、なんとかなりました。

日本語を学んだ後、私は秋田教会の助任司祭として赴任しました。その時、私の日本語の授業には口語や秋田弁が含まれていないことに気づきました。しかし、教会にいと、ミサや聖書の勉強会、カテキズムのクラス、信者さんたちとの会話など、毎日日本語を使わなければなりませんでした。少しずつ日常会話できて、説教の際にノートを使わないほど、日本語に慣れてきました。歳をとればとるほど、新しい言語を学ぶのは難しくなると言われています。私が日本語を話せるようになったのは、聖霊のおかげだと信じています。それに、日本に来ることを選んだのは自分なのだから、言葉を覚えるために一生懸命努力しようと最初から決めていました。

私は、日本の神言修道会のメンバーとして、さまざまな地区で活動する機会に恵まれました。秋田、東京、名古屋、長崎です。私が日本に来たとき、神言会は新潟県にあった小教区をすでに手放していました。しかし今、日本に来て30年になりますが、一番長くいるのは新潟県なのです。私は2011年の東日本大震災の後、長崎から長岡に来て、6年間過ごしました。その後、この新潟教会に移動してきました。この小教区に来て4年目になります。

私は、困難な状況に陥ったとき、いつでも助けてくれる親切で寛大な人たちに恵まれました。神言会の仲間たちは、私の宣教司牧に必要なサポートや指導を常に与えてくれました。日本の方々は私の状況をよく理解してくださり、外国人の共同体は必要なプロジェクトに常に協力してくださいました。私は自分が本当に恵まれていると思ひ、神の導きと恵みに毎日感謝しています。

主が私にあと何年与えてくださるかわかりませんが、私が奉仕できる限り、イエス・キリストの福音を伝えるという日本の教会の使命のために、できる限りのことをしていきたいと思ひます。最後に、司祭叙階25周年に私は選んだ聖書の言葉をあらためて思い出します。「私たちは、この宝を土の器に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかにされるためです。」（第2コリント4:7）

神に栄光！神に感謝！

## そよかぜ便り

### ■聖なる過越の3日間

#### ●聖木曜日 4月1日(木)

この日の典礼は、聖香油のミサで聖別された香油の受け取りで始まった。この一年教会で使われる3種類の香油の瓶が一つずつ会衆に顕示された。洗足式は、感染拡大予防のため行われなかった。ヨハネ福音書の最後の晩餐の場面が朗読され、イエスの弟子たちに向けられた最後の言葉に耳を傾けた。司教様は説教で「イエスは、自分を裏切るとわかっているユダの足を洗ったのでしょうか?」と問いかけられた。弟子の足を洗う場面が描かれているのはヨハネ福音書だけであることも話された。共同祈願は、司教様がミャンマーで苦しむ人のための祈りを加えて行われた。ミサ後 21 時まで聖体礼拝が行われた。

#### ●聖金曜日 4月2日(金)

聖歌はなく、ラウル師・ロレンゾ師・岡助祭の三人が地にひれ伏す祈りの場面から静かに典礼が始まった。この日は受難の場面の朗読があり、十字架賛歌を歌い、十字架の礼拝も行われた。黒い十字架の色を落とした、もともと刻まれていた葉の模様が浮き出てきたことなどをラウル師が話された。

#### ●復活の聖なる徹夜祭 4月3日(土)

新しい祝福された光が復活のろうそくにとともにされ、ろうそくを掲げた岡助祭の「キリストの光」に会衆は「神に感謝」と応えた。そして司式司教・司祭・侍者が入堂し、復活のろうそくの光が、会衆のろうそくにも次々に灯された。多くの信徒にとって2年ぶりの徹夜祭の典礼となった。

司教様は説教の中で「コロナ禍によって引き起こされた様々な苦しみの闇・ミャンマーの兄弟姉妹が今直面している苦しみの闇・その他多くの暗闇の中で、このいのちの光・希望の光・愛の光はますます輝いています。」と語られ、共同祈願の中でもミャンマーで苦しむ人々に向けた祈りがささげられた。



## ●岡助祭からのメッセージ

先日、助祭に叙階された岡神学生よりメッセージをいただきましたので、掲載させていただきます。

### 助祭叙階を受けて

助祭 岡 秀太

わたしは、2021年3月20日（土）新潟教区長 成井大介司教様から助祭叙階のお恵みを頂きました。まず成井司教様に感謝いたします。次に司祭団の皆様にご感謝申し上げます。そしてなにより新潟教区のすべての皆様にご心から感謝をいたします。本当にありがとうございます。

思えば、新潟に初めてお伺いしたのは、もう7年も前のこととなります。そのころ、わたしは所属していた修道院の日本における閉鎖が決定しましたので、司祭として日本の教会に奉仕するのか、あるいは、引き続き『聖ベネディクトの戒律』に従って生活するために函館のトラピスト会に移籍するのかを思案しておりました。ベネディクト会の院長のご厚意で将来のためにトラピスト会と他の教区にもお話をお伺いする時間を頂き、新潟や他の教区にお話を聞かせていただくために出かけました。

はじめて新潟の司教館にお伺いした時のことです、大瀧神父様と菊地司教様が「どうもどうも」という感じでお出迎えくださいました。わたしはこれまでのこととお話させていただきました。お二方ともじっくり聞いてくださいました。不思議なことにわたしも「緊張」せずにゆっくりお話しすることができました。それから紆余曲折はありましたが最終的に新潟教区にお世話になろうと決めました。新潟教区を選ばせていただいた理由はいくつかありますが、その理由の一つは面接で「緊張」しなかったからです。

あらからもう7年過ぎ、わたしは助祭に叙階

されました。先日の助祭叙階式の中、成井司教様との約束の最中、次のような考えが頭をよぎりました。それは「自分は大変なことを神に約束している」「この務めを自分一人では果たすことができない」というものでした。文章として理解していることと叙階式の中で、実際に司教様とのやり取りは全く異なっており重大な覚悟を求められたように感じました。続いて、受階者は床に伏せて神と諸聖人に助けを願います。わたしは床に伏せながら「聖母マリア、コルベ神父助けてください」「みんな助けて」と心の中で繰り返しました。神の名は恐れ多くて出てきませんでした。

助祭を含めてすべての聖職者には祈りによる助けが必要だと感じました。このような大きな務めを一人では到底果たすことができません。今回、本当に幸いなことに叙階式前に多くの方々から叙階のためのお祈りと犠牲の花束を頂きました。叙階式でわたしが、教会への奉仕という大きな務めを受け取る勇気が与えられたのも、本当に多くの方々の祈りによる支えがあればこそだと思います。心より感謝いたします。

さて、神学校生活は最終学年をむかえます。卒業試験を受け来年には卒業の予定です。遙か彼方の目標であった司祭叙階も、もう遠い将来の話ではなくなりました。わたしは、この1年間、助祭の務めを果たしながら、司祭叙階に向けての最期の準備をすることになります。どうかわたしのために引き続きお祈りくだされば幸いです。キリストの祭司職という大きな責任と恵みを謙遜に引き受けることができますように。わたしもまた、神学校での日々の『教会の祈り』の中で、また特にロザリオの祈りの中で新潟教区の皆様のために祈っています。

最後に、お忙しい中、叙階式を準備してくださった皆様にご特別に感謝いたします。皆様のご期待に少しでも沿うことができますよう頑張りたいと思います。



●聖書勉強会

日時 毎週水曜日 午前10時～ 会場 カトリックセンター研究室 指導 ラウル神父

●はじめて教会を訪れる人のための聖書勉強会

日時 毎週火曜日 午後3時～ 会場 カトリックセンター研究室 指導 ラウル神父

●信仰養成講座「知ってるつもり?!」

日時 5/8(土) 午前10時～11時 会場 カトリックセンター研究室  
指導 主任司祭 ラウル神父

●月曜会（秋田の聖母を通して祈る会）

成井司教のミサとロザリオの祈り（どなたでも。ミサのみ参加も可）。

今後の予定 5/24、6/14

時間 午前11時～

指導 成井司教様

会場 新潟教会聖堂

主日のミサと同様、コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。

●ミサで使用する聖書と典礼、お知らせ、聖歌のプリントについて

コロナウイルス感染防止対策として、ミサで使用している聖書と典礼、お知らせのプリント、聖歌のプリントは、使用后戻さず、必ずお持ち帰りください。ご協力よろしく申し上げます。

●毎月第3日曜日9:30のミサの第2朗読について

上記のミサでベトナム信徒によりベトナム語で朗読されることがあります。「言葉は違っても信仰は同じ」の思いで、ミサを共有してゆきましょう。

●季刊双塔の原稿募集箱を常設します。（広報部）

いつも季刊双塔を発行する時期になりましたら、信徒の皆さんにはその都度原稿の依頼をしてまいりました。中には何か出来事や思いがある時に書きたい方もいらっしゃると思い、常設することにしました。

メールアドレスの記載もありますので、思った時に思いのままに皆さんの文章をお寄せください。

## 2021年5月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等	教会の行事
2日(日)	復活節第5主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小教区評議会 (9:30 ミサ後)</li> <li>・英語ミサ (12:00)</li> <li>・センター&amp;外のトイレ清掃 (英語ミサ後)</li> </ul>
3日(月)	聖フィリポ 聖ヤコブ使徒(祝)	
8日(土)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・信仰養成講座「知ってるつもり?!」 (10:00 研究室)</li> </ul>
9日(日)	復活節第6主日 世界広報の日(献金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母の日のミサ</li> </ul>
16日(日)	主の昇天 (復活節第7週)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖堂、センター&amp;外のトイレ掃除(各ミサ後)</li> <li>・広報部会(9:30 ミサ後)</li> <li>・ベトナム信徒の集会(センター2F)</li> </ul>
17日(月)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラウール・バラデス神父司祭叙階記念日</li> </ul>
23日(日)	聖霊降臨の主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミサ(成井司教様司式)</li> </ul>
30日(日)	三位一体の主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会維持費の整理 (9:30 ミサ後 事務室)</li> <li>・国際協力部会(10:00～ 研究室)</li> </ul>
31日(月)	聖母の訪問(祝)	

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間：主日日曜日 (7:00 9:30 11:00) 英語ミサ (第1日曜日 12:00)  
週日(7:00、金曜日のみ10:00)

9:30のミサ、11:00のミサ2部制で行います。

各回、それぞれ朗読と共同祈願を選出します。急遽、朗読等をお願いすることがありますので、その際は快く引き受けくださるようよろしくお願いします。

月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

カトリック新潟教会 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656  
<http://cathedral-niigata.jp/> TEL025-222-5024 / FAX025-222-5054

